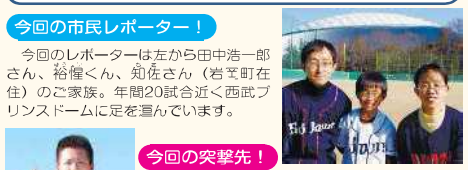
みんなのひろば

スマホで動画！
アプリでARのある写真を写すと動画が見られます。
詳細は市HP（「AR」で検索）へ

▲毎年、1月1日に1年の健康を祈念して行われる「所沢元旦健康マラソン大会」。雲一つ無い快晴の中、子どもから年配の方まで1,046人が公園内を走りました。走るのも歩くのも自由、仮装して走るのも自由な健康マラソン大会でした。
1月1日㈷／所沢航空記念公園
（写真：市民カメラマン・中村　仁）

▲成人の新しい門出を祝福するとともに、21世紀の担い手としての活躍と幸福を祈念し、11会場で開催された『第69回所沢市成人のつどい』。並木地区では受付開始前から久しぶりに再会した旧友と談笑する輪ができていました。
1月11日㈪／所沢市民文化センターミューズ
（写真：市民カメラマン・西田憲正）

▲毎年1月5日の初水天宮に開催される「久米水天宮大祭（だるま市）」。安産祈願でも有名な久米水天宮に、大小さまざまなだるまが並び、だるまを買い求める人や祈願する人など多くの方が訪れました。
1月5日㈫／久米水天宮
（写真：市民カメラマン・浅見司郎）



▲こねられた米粉（上新粉）を子どもたちが楽しそうに丸め、コナラの木にみかんと共に飾りつけをした『第31回富岡地区まゆ玉まつり』。参加者には、だんご汁も振る舞われ、おいしそうに食べていました。
1月9日㈯／富岡まちづくりセンター
（写真：市民カメラマン・三平資郎）

地域の絆 やっぱり自治会・町内会でしょ！⑳

ご近所同士で力を合わせ、さまざまな課題解決や地域の絆づくりを行っている自治会・町内会をご紹介します。

北所沢町町会
～世代を超えて、泳げ！こいのぼり！～

▲長谷川会長

所沢市の中央部、新所沢東地区に位置する北所沢町会は、発足から約50年の歴史があります。

起伏が少なく災害に強い安全・安心なこのまちで、現在555世帯の会員が活動しています。

町会活動の中心であった北所沢町会館は、昨年9月に建て替え、新たな活動の拠点として大いににぎわっています。県産木材を多く使ったぬくもりのある室内で、地域の絆を大切にする各種クラブや学習会など、多くの活動が行われています。

健康長寿を目指す「北所サロン　いざない会」では、地域の方が差し入れたコーヒーを片手に夕食の献立から宇宙の話まで幅広い話で盛り上がります。「お年寄りが外出する機会、人と人がつながる機会をできるだけ多く作りたい」と語る長谷川　勉会長は、会長歴12年のベテランです。

町会は、まちの将来を担う子どもたちが参加できる活動にも力を入れています。夏は納涼のタベ、冬は親子で餅つきなど季節を彩るさまざまな行事が行われます。

5月のこいのぼり揚げもその一つ。昔はどの家庭にもあった大きなこいのぼり。「今の子どもたちにもその勇壮な姿を見せてあげたい！」と、こいのぼりを揚げ始めて5年。今では町会の皆さんが子どもたちのために提供してくれた35匹もの大きなこいのぼりが北所沢中央公園の空を泳ぎます。「若い世代の心に『故郷』の風景として残したい。このまちに愛着を持ってもらい、活動に参加してもらえたら」と長谷川会長は話します。今年も空を見上げる多くの若い親子連れのほほ笑ましい姿が見られることでしょう。

▲北所沢中央公園のこいのぼり

将来、さらに次の世代のために公園でこいのぼりを揚げる人たちが、若い世代の中から出てくるのかもしれません。

《次回は所沢地区の宮本町町内会を紹介します。》

問地域づくり推進課☎2998・9083

兄弟でムエタイインターナショナルチャンピオン

宮越宗一郎さん・慶二郎さん（林在住）

昨年11月15日に後楽園ホールで行われた「WBCムエタイインターナショナル王座決定戦」で、兄の宮越宗一郎さんがスーパーウェルター級、弟の慶二郎さんがライト級でそろって勝利し、兄弟同時にインターナショナル王座についた。

2人は元プロキックボクサーの父が、自宅で空手とキックボクシングの拳粋会宮越道場を開いたのを機に空手を始めた。小学5年生だった宗一郎さんは「父の指導は厳しくなかったので、半分遊び感覚だった」。2年生だった慶二郎さんは「兄や友だちと一緒に習い事の一つとして始めた」と振り返る。

中学では野球部の活動を優先していた宗一郎さんだが、高校生のときにキックボクサーの魔裟斗選手に憧れ、「プロキックボクサーになろう」と決意。慶二郎さんは中学・高校とバスケットボール部に所属。大学に進学してもプロバスケットボール選手にはなれないと、その道を諦め「キックボクシングでチャンピオンになるのが夢だった父。父はその夢を僕らに託していたのでは…」と思い高校卒業後にキックボクシングの道へ進む。

キックボクシングと共にムエタイの試合にも参戦。平成24年には兄弟で日本王者。そして臨んだ昨年のインターナショナル王座決定戦で勝利。宗一郎さんは「日本王者になってから3年が経ち、やっとインターナショナル王座に挑戦できた。兄弟そろって王者になれて安心した。そしてうれしかった。次は人生の目標である世界王者になりたい」。慶二郎さんは「兄弟でダブルタイトルマッチを戦えるとは思っていなかった。所沢出身ということで多くの地元の方が応援にきてくれてうれしかった。次は防衛戦で勝利し、世界王者に向けて1歩ずつ進んでいきたい」。そして2人は「兄弟そろって世界王者になりたい」と力強く抱負を述べた。

◀左から宗一郎さん・慶二郎さん（WBCムエタイインターナショナル王座決定戦）

「相手に殴られるのより、試合で負ける方が怖い」。それは「応援してくれた人を裏切ることになるから」と言う2人。勝つために練習では「自分で限界を決めない、作らない精神力と身体を作っている」。所沢から世界王者が誕生するのも夢ではない。宮越兄弟を応援しよう。

誰でもエッセイ

◆テーマ「かるた」◆

かるたの旅

美原町　深尾　純子

小学6年生の三男は、小学校に入学してから1月の彩の国21世紀郷土かるた所沢大会出場に向けて毎年練習してきた。

4年生の頃、父親とかるたの札の場所や人物に興味を持ち、2年半かけて46札のまつわる場所をめぐる「かるたの旅」をした。そして今年の夏休みの自由研究として発表した。

長年、埼玉県人でありながらも知らない事が多く、歴史や文化を改めて感じることができ、とても新鮮な旅だった。兄たちや、祖父母も参加した旅もあり、壁に貼られた旅の思い出は我が家の宝物となった。

そして今日、最後の所沢大会出場を賭け校内かるた予選会に挑む。

彩の国21世紀郷土かるた

中富南　井田　あすみ

【彩の国21世紀郷土かるた】は、埼玉県の有名な場所や人物について書かれているかるたです。

私は特に「朝ごはん　ぬれて　輝く　古代蓮」という札が好きです。

毎年冬に小学生の郷土かるたの大会があります。

そして、昨年の冬に、私は初めて郷土かるたの所沢大会に出ました。会場は広くて、とてもドキドキしました。

4人で1チームになって、力を合わせてたたかいました。取らなきゃ相手に10点が入ってしまう「シンボル札」という札を取ることができなくて負けてしまい、すごくくやしかったです。

それから私は、郷土かるたを買って放課後にいっぱい練習しています。次の大会では、勝てるといいです。

突撃！ライオンズ特派員！⑩

今回の市民レポーター！

今回のレポーターは左から田中浩一郎さん、裕惺くん、知佐さん（岩竜町在住）のご家族。年間20試合近く西武プリンスドームに足を運んでいます。

今回の突撃先！

矢瀬菱斗外野手（背番号53／右投げ・右打ち）

平成27年のドラフト会議で4巡目に指名された新入団選手。昨年夏の甲子園大会は埼玉県代表として花咲徳栄高校で4番センターで出場。2回戦の三沢商業戦ではランニングホームランを放つなど活躍。目標とする選手は秋山翔吾選手。

インタビュー「大瀧選手ってどんな人？」

新入団選手の合同自主トレで汗を流した後、取材に応じてくれました。まだ初々しさの残る大瀧選手でしたが、質問に笑顔で丁寧に答えてくれました。

若獅子寮に入寮しての感想を伺うと、「存分に野球ができる環境が整っているので楽しみ」。その言葉通り、これまで努力を惜しまなかったと語る大瀧選手は、小さいころから気が済むまで練習に励んでいたそうです。

大瀧選手の強みは走攻守そろっているところ。特に「守備は打つことより好き」「ボールの落下点をいち早く見つけて、全力でボールを追いかける瞬間が1番楽しい」とうれしそうに話してくれました。

入寮前、大阪に帰省していたときに、行きつけの鳥料理店が予約いっぱいで食べられなかったことをとても残念がっていました。所沢でも行きつけのお店を見つけてほしいですね！

プロ野球選手を夢見る子どもたちへ「何事にも負けないということを第一に、夢に向かってただ一生懸命努力すること！」とメッセージをいただきました。1軍で活躍する大瀧選手を見るのが楽しみですね！

レポートを終えて

18歳とは思えないほどしっかりしていて驚かされました。また、本当に野球が好きなんだという思いがひしひしと伝わってきました。大瀧選手のガッツあふれるプレーを楽しみに、応援していきます。

問商業観光課☎2998・9155

はっらつところ野老っ子

昨年11月15日に後楽園ホールで行われた「WBCムエタイインターナショナル王座決定戦」で、兄の宮越宗一郎さんがスーパーウェルター級、弟の慶二郎さんがライト級でそろって勝利し、兄弟同時にインターナショナル王座についた。

2人は元プロキックボクサーの父が、自宅で空手とキックボクシングの拳粋会宮越道場を開いたのを機に空手を始めた。小学5年生だった宗一郎さんは「父の指導は厳しくなかったので、半分遊び感覚だった」。2年生だった慶二郎さんは「兄や友だちと一緒に習い事の一つとして始めた」と振り返る。

中学では野球部の活動を優先していた宗一郎さんだが、高校生のときにキックボクサーの魔裟斗選手に憧れ、「プロキックボクサーになろう」と決意。慶二郎さんは中学・高校とバスケットボール部に所属。大学に進学してもプロバスケットボール選手にはなれないと、その道を諦め「キックボクシングでチャンピオンになるのが夢だった父。父はその夢を僕らに託していたのでは…」と思い高校卒業後にキックボクシングの道へ進む。

キックボクシングと共にムエタイの試合にも参戦。平成24年には兄弟で日本王者。そして臨んだ昨年のインターナショナル王座決定戦で勝利。宗一郎さんは「日本王者になってから3年が経ち、やっとイ